

# 壮春力歩

会長 鈴木 末一

## 活動に伴うマニュアルづくり

時の過ぎゆく速さに戸惑いを隠せません。本会の一年間を振り返ってみますと、近年になく多くの同志を迎えることができました。17年間で4倍近い人数になり、多士済々のそろい踏みであります。諸活動の色々な分野で、ぜひともお持ちのパワーや知識技能などを発揮していただくことを期待しています。

さて、ならやま里山林での公開イベントに例年以上の多くの参加者を迎えることができました。参加者の方々からは、想定以上の賛辞の感想をお寄せいただきました。しかし、それに慢心していることは許されません。

そこで、日常行っている定例活動日における森づくり作業安全管理チェックシートは、活動内容が植林や下刈り除伐などの森づくり作業である場合が主な作業内容と想定し、作業の種類ごとにチェックすべき項目の事例をリストアップしたものがあります。

一般的に森づくり作業に参加する者は、自然物を対象とした作業に不慣れです。このため、森づくり作業を行うに当たっては、多様な作業条件に適応した作業姿勢、作業動作など森づくりに関する幅広い知識と技能を有する指導者の下で行われることが前提となります。このチェックシートは、「森林体験学習等における安全管理手法に関する報告書」(平成18年3月林野庁)に掲載された「安全管理チェックシート」に加筆・修正をしたもので、誌面の関係上それぞれのチェックシートについては記載しませんが、そのような資料を参考にして、ならやまプロジェクト推進体制中の安全推進部門において、より一層充実したマニュアル作成に取り組まなければなりません。活動の主体が会員であるのか、子どもであるのかに関わらず、活動の中にどのようなリスクがあるかを事前に把握し、細心の注意を払ってそれらのリスクへの対処を行うことで、より安全で質の高い活動にしていくことが、指導する立場の大人の大きな

役割であると考えられます。そこで、子どもは大人と違って危険予知能力が相対的に低いこと、つまり、本能的に備えているような直接的な危険に対する認知力はあるとしても、経験によって獲得していく危険を予知し想像する能力は未熟であると考えられます。しかし、まず自分の身は自分で守るという意識を持たせることが重要だと思います。本人が転ばないように、落ちないように、切らないようにというように知識、能力、経験を積ませるための活動の場と考えることが大切ではないかと思います。一方、大人の場合でも、知識、能力、経験などは、千差万別であります。むしろ、大人だからこれくらいのことは理解されているだろうと先入観でもって判断することは、大きなリスクにつながることも限りません。

現状、再点検すべき安全のポイントとして、

- ① 森林作業に新しく参加するメンバーの基礎教育はできているか。
- ② 森林体験に参加する児童・保護者に対する安全マニュアルは十分か。
- ③ 部外者(通行人、通行車両)に対する危険の想定と対策は十分か。
- ④ 万一の事故発生時の緊急時の対応マニュアルはできているのか。
- ⑤ ボランティア活動をしていることで、無意識の甘えはなかっただろうか。

などが考えられます。

ならやまプロジェクト活動のエリアには、サイクリングロードなどの公道が走っています。散策をする人、ジョギングをする人、サイクリングをする人、車で通行する人など、多くの市民が通っています。それらの人たちに何らかのリスクを与えるようなことは絶対あってはいけませんが、万一発生したら、それは重大事故です。当会全体として、基本姿勢について総点検しなければなりません。マニュアル以前の喫緊の重要課題であります。

「ボランティアをしてやっているという気持ちを少しでも思ったことはないだろうか」と自分自身に問いかけつつ・・・。